

中学校特別活動

1 教育課程の改善のポイント

- 各内容の目標やねらいを明確にした年間指導計画の作成と実施
 - ・よりよい人間関係を形成する力の育成
 - ・集団や社会に参画する力、自治的能力の育成
 - ・人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力の育成
- 生徒の発達の段階や課題に即した自主的、実践的な活動の充実
 - ・よりよい生活を築くための諸活動の充実
 - ・小学校における特別活動との接続と発展
 - ・異年齢集団活動や地域等における教育活動の充実
- 他の教育活動との有機的な関連を図った特別活動の全体計画の作成と実施
 - ・各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連
- 体験活動を通じた全人的な人間形成
- 話し合いや発表活動を通じた言語活動の充実

2 全面実施に向けて取組が求められること

(1) 全教師による特別活動の推進

ア 自校の特別活動の全体計画及び各活動・学校行事の年間計画について全教師で共通理解しましょう。

- ・全教師が自校の特別活動のその年度の重点目標や、特色を説明できることが大切です。特別活動は学級活動、生徒会活動、学校行事に対してすべての教師が積極的にかかわらなければ成果をあげられないものです。

イ 3年間のストーリーをデザインしましょう。

- ・入学から卒業までにどのような集団活動・体験を経験させるのか、どの学年で何を重点化して行うのかという視点を大切にしましょう。

(2) 目標に「人間関係」が加わったことを踏まえた指導の工夫

ア 各活動・学校行事の目標にも「人間関係」が示されたことを受けて、以下のような観点からそれぞれの活動内容を見直すとともに、内容相互の関連を図りましょう。

・学級活動

学級経営の充実に、学級活動を効果的にいかしましょう。

例えば、4月～7月を「安心・居場所作り」(役割・所属意識)、8月～12月を「仲間・つながりづくり」(人間関係・協力)、1月～3月を「きずな自信づくり」(承認と自信)のように、一年間の学級集団づくりと関連させましょう。そして、生徒が心理的に安定して帰属できる「心の居場所」としての学級集団づくりを進めましょう。

学級活動(1)と学級活動(2)(3)の内容の特質に応じた指導を学校全体で行いましょう。

基本的には、学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」は「集団討議による集団目標の集団決定」を、学級活動(2)「適応と成長及び健康安全」や(3)「学業と進路」は、「集団思考による個人目標の自己決定」を確実に行うことが重要です(何も決めなければ実行も振り返りありません)。特に「自己決定」は、生徒一人一人が「いつ、どこで、何を、どのように努力するのか」等を具体的に決めることが大切です。

学級活動(1)では、話し合いによって「折り合うこと」を実感させましょう。生徒たちに、「学級活動での話し合いは、一人でも多くの人が納得したり一人でも多くの人のお考えが活かされて答えを見付ける時間である」という認識をもたせましょう。

学級活動(2)「適応と成長及び健康安全」の指導において、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルなどの取組との関連を図る場合は、それぞれの考え方や一連のプロセスをそのまま取り入れるのではなく、学級活動(2)の指導の特質を踏まえて効果的に取り入れましょう。

(例) 活動の開始(学級内や自分自身にどのような人間関係上の課題があるのかを理解する)

活動の展開(新しい考え方や手法を効果的に取り入れつつ、人間関係を築くことの大切や必要性を実感できるようにする)

活動のまとめ(よりよい人間関係を築くために、実際に、いつ、どこで、どのようなことに取り組むのかを自己決定する)

※単なる感想に終わらない。

一単位時間の展開の過程については、なるべく生徒の司会によって進行するようにし、取り扱う題材の内容によっては、別に議長を設けるようにするとともに、司会や議長については、すべての生徒が経験できるように配慮しましょう。

・生徒会活動

5項目「生徒会の計画や運営」「異年齢集団による交流」「生徒の諸活動についての連絡調整」「合教行事への協力」「ボランティア活動」はすべての学年で行いましょう。

生徒一人一人に望ましい人間関係形成能力が求められていることを受け、生徒会活動においても学校内外における異年齢集団活動を積極的に行いましょう。

特に、生徒一人一人が何らかの役割をもち、自己の責任や判断に基づいて仕事を遂行し、充実感や存在感、そして自己有用感を味わえるように指導しましょう。

生徒会活動で学校全体の人間関係の課題(いじめや暴力等)をテーマにして、自治的活動の範囲でその予防的な活動に取り組みせることも考えられます。例えば、児童会と生徒会が合同でサミットのようなものを開催し、「いじめ防止」等をテーマに意見交換したりすることも考えられます。

・学校行事

指導要領で示された5つの内容(「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「旅行・集団宿泊的行事」「勤労生産・奉仕的行事」)は、すべての学年で取り組むことが必要です。

異年齢集団による交流、幼児、小学生、高齢者、障害のある人々などとの触れ合いが充実するように計画・実施しましょう。

例えば、職場体験は、「楽しかった」で終わるのではなく、「自分にはもっと勉強が必要だ」等の感想がもてるように、一定期間（例えば5日程度）にわたって行うことが望まれます。

(3) 目標に「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力」が加わったことを踏まえた指導の工夫

ア 特に意識したい道徳の内容項目を見定めて集団活動を行いましょう。

イ 様々な集団活動を実践した後、生徒たちに自分の言葉で振り返りをさせ、成長を実感させましょう。

(4) その他

ア 特別活動における集団活動が集団にとっても、個人にとっても望ましいものになるようにしましょう。

・集団活動の後、子どもたち一人一人が「自分も役だった、貢献できた」という主観（自己有用感）と、「以前よりも自分にとって学級が居やすい場になった、楽しくなった」という主観（安定感）をもっているかという観点から指導を振り返りましょう。

【参考資料】

○特別活動の全体計画（小学校の例）【資料1】

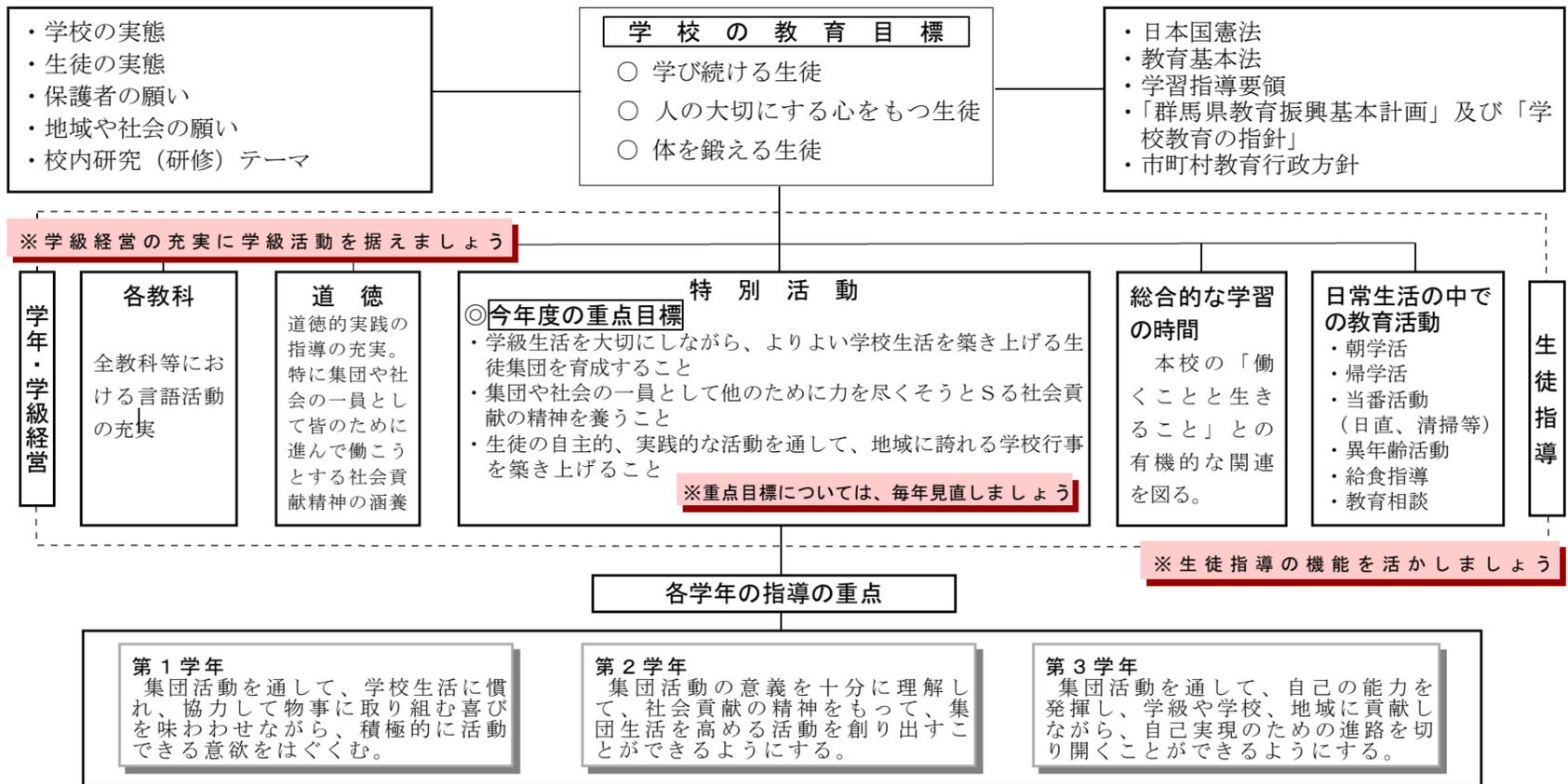
○特別活動の全体計画（中学校の例）【資料2】

○学級における学級活動年間指導計画例（中学校）【資料3】

【資料1】 特別活動全体計画例（小学校）



【資料2】 特別活動全体計画例（中学校）



	学級活動	生徒会活動	学校行事																																																								
重点目標	1 望ましい人間関係づくりを通して、よりよい学級生活を築き上げようとする意欲を高める。 2 話し合い活動を通して、望ましい集団決定や自己決定をし、実践に取り組む態度を育てる。 3 人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。 ※内容の17項目は全学年で指導します	1 よりよい学校生活づくりを通して、自発的、自治的な能力を高める。 2 ボランティア活動等の社会参加を通して、社会貢献の精神をはぐくむ。 3 全校生徒が生徒会役員としての自覚をもち、よりよい校風づくりに尽力できる態度を養う。	1 職場体験等を通して、社会貢献や公共の精神を養う。 2 伝統的な学校行事に積極的に取り組みながら「感動」をキーワードに集団への所属感や連帯感を深める。																																																								
活動の内容	【内容】 (1) 学級や学校の生活づくり ア、イ、ウ (2) 適応と成長及び健康安全 ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ (3) 学業と進路 ア、イ、ウ、エ、オ ◎第1学年の指導の重点 (1) ア(学級や学校における生活上の諸問題の解決) (2) オ(望ましい人間関係の確立) (3) ア(学ぶことと働くことの意義の理解) ※(2)のエとクは統合、(3)アは総合的な学習の時間と関連させる。 ※道徳の授業との有機的関連を図った活動計画を作成する。 ◎第2学年の指導の重点 (以下、略) ◎第3学年の指導の重点 (以下、略)	【内容】 (1) 生徒会の計画や運営 ア、イ、ウ、エ、オ ※重点はア、エとする (2) 異年生集団による交流 (5)と関連して、地域の高齢者介護施設でのボランティア活動、PTAとの資源回収、地域清掃等 (3) 生徒の諸活動について連絡調整部活動で使用する施設設備、活動時間の調整等 (4) 学校行事への協力 新入生歓迎会、3年生を送る会の企画運営、地域の方々への学校行事招待状発送、体育祭の生徒会種目の企画 (5) ボランティア活動などの社会参加 総合的な学習の時間との連携 ◎委員会毎に特色ある活動を企画実施	【内容】 (1) 儀式的行事 始業式、入学式、離任式、終業式、卒業式、修了式 (2) 文化的行事 新入生歓迎会、合唱祭、〇〇講演会、3年生を送る会、芸術鑑賞会、伝統芸能鑑賞会 (3) 健康安全・体育的行事 薬物乱用防止教室、交通安全教室、持久走大会、身体測定、健康診断、避難訓練、球技大会、体育祭 (4) 旅行・集団宿泊的行事 校外学習、尾瀬学校、修学旅行 (5) 勤労生産・奉仕的行事 職場体験、資源回収、ボランティア活動 ◎体育祭、合唱祭は地域に誇れるような行事となるように重点を置く。 ◎職場体験は総合的な学習の時間と連携																																																								
自校の特色	・道徳的実践の指導の充実、総合的な学習の時間「働くことと生きること」との関連を明確にした年間指導計画 ・人間関係づくりをねらいとする社会的スキル指導等をスクールカウンセラーを活用しながら計画的に実施 ・中学校非行防止プログラム実施による問題行動等の未然防止に努める	・異年齢集団によるボランティア活動(中学校区内の小学校の児童会と連携して実施する) ・新入生歓迎会、部活動紹介、出身小学校母校訪問等、児童会と連携して中1ギャップ対策を行う。	・総合的な学習の時間「働くことと生きること」、道徳の授業と関連付けた職場体験活動(5日間実施) ・プロの演奏家を招聘する芸術鑑賞会 ・体験したこと等を発表することによる言語活動の充実 ・一人一人の生徒が自己有用感をもてる活動を意図的に取り入れる。																																																								
時間・組織	時数配当(例) <table border="1"> <tr> <th></th> <th>内容(1)</th> <th>内容(2)</th> <th>内容(3)</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>18時間</td> <td>12時間</td> <td>5時間</td> <td>35時間</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>10時間</td> <td>15時間</td> <td>10時間</td> <td>35時間</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>10時間</td> <td>10時間</td> <td>15時間</td> <td>35時間</td> </tr> </table> ※自発的、自治的な活動の重視 ※学級活動委員に関して、司会や議長はなるべくすべての生徒が経験できるようにする。 ※1学年は「中1ギャップ」解消に向けて人間関係づくり、ガイダンスの時間を多くとる。 ※3学年は、進路指導の時間を多くとる。 ※朝学活、帰学活での話し合いは時数には数えない。		内容(1)	内容(2)	内容(3)	計	1年生	18時間	12時間	5時間	35時間	2年生	10時間	15時間	10時間	35時間	3年生	10時間	10時間	15時間	35時間	時数配当(例) <table border="1"> <tr> <th></th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> </tr> <tr> <td></td> <td>18</td> <td>18</td> <td>21</td> </tr> </table> ※内容(2)の地域高齢者介護施設でのボランティア活動の「ボランティア学習」の時間は、探究的な学習として総合的な学習の時間に充てる。 ※生徒総会は年2回実施する。生徒評議会、各種委員会は月1回第2木曜日6校時を定例とする。 ※生徒会役員会は、生徒評議会、各種委員会の定例会とは同日開催。 ※指導者は全教師。		1年生	2年生	3年生		18	18	21	時数配当 <table border="1"> <tr> <th></th> <th>(1)</th> <th>(2)</th> <th>(3)</th> <th>(4)</th> <th>(5)</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>70</td> </tr> </table> ※5つの学校行事は全学年で実施します ※職場体験活動は2年生で実施。事前学習と事後発表会は総合的な学習の時間として実施する。 ※全校行事の指導者は全教師が協力して計画、実施。学年行事は該当学年の教師が中心となる。		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	計	1年生						45	2年生						48	3年生						70
	内容(1)	内容(2)	内容(3)	計																																																							
1年生	18時間	12時間	5時間	35時間																																																							
2年生	10時間	15時間	10時間	35時間																																																							
3年生	10時間	10時間	15時間	35時間																																																							
	1年生	2年生	3年生																																																								
	18	18	21																																																								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	計																																																					
1年生						45																																																					
2年生						48																																																					
3年生						70																																																					
評価と改善	・事前指導から事後活動までの過程で、生徒の変容を促す手立てを講じる。 ・集団決定や自己決定した内容の実践の成果と課題を自己評価や相互評価、教師による観察等で評価し、よりよい実践につなげる。 ・学期末、年度末の学校評価の評価項目に、特別活動の重点目標、各学年の指導の重点について記載し、全教師、保護者対象のアンケートを行い、評価結果を分析し、次年度の計画づくり、取組内容の充実に生かす。	※適宜、生徒会役員会や各種委員会が全校生徒対象にアンケート調査を行い、活動の見直しと改善を図る。	・事後の感想文や発表会で、活動の成果と課題を生徒が相互評価する。 ・担当者が教師対象に企画から事後の事務処理に至るまでについてアンケート調査をし、次の取組に生かす。																																																								

【資料3】

○中学校 第○学年○組 学級活動 年間指導計画(例)

担任 ○○ ○○ 男子○○名、女子○○名

【学校教育目標】
【学年教育目標】
【学級教育目標】
【学級の名前】

【育てたい力】	【評価の観点】
○ 学級づくりに学級活動の時間をいかしましょう。ここでは3段階に設定しましたが、学校の実態に応じて、2学期制や4期制に対応させることもできます。	○ (1)には3つの項目(ア～ウ)があり、いずれの学年においても取り組みます。また、(1)に充てる時数をなるべく多くするようにしましょう。
○	○ (2)には9つの項目(ア～ケ)がありますが、それらは全学年で取り組むことが必要です。ただ、9つの項目をそれぞれ一時間ずつ配当するのではなく、複数の項目を統合して指導することも必要です。例えば、7月に「充実した夏休み」という題材で指導する際、(2)ウ「社会の一員としての自覚と責任」や(3)イ「自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用」を関連付けて指導すること等です。また、(2)に充てる時数も明確にしましょう。
○	○
○	○

時数	月	段階	(1)学級や学校の生活づくり【○○時間】	(2)適応と成長及び健康安全【○○時間】	(3)学業と進路【○○時間】	朝・帰りの会等	各教科、特別活動の各活動との関連事項
			予想される議題(主な活動)	題材名(指導内容)	題材名(指導内容)		
1	4月	イ	1学期の係を決めよう	ア ○年生になって	(3)には、5つの項目(ア～オ)があり、それらをすべての学年で指導します。また、(3)に充てる時数も明確にしましょう。	・自己紹介 ・自分のめあて ・当番活動について ・ソーシャルスキル(挨拶アラカルト)	始業式、離任式
2			ア 学級目標を決めよう				新入生歓迎会
3							
4	5月	仲間意識を高める	この欄には、(1)の項目ア、イ、ウのうちのどれかを記入し、内容を明確にします。	ここに、(2)の項目9つのうち、どれにあたるのか記入します。このことで、9つの共通項目が計画的に実施されているかを確認できます			
5							
6			キケ 食べ方と暮らし方の工夫で健康に				
7	6月						
8							
9							
10	7月						
11							
12							
13	8月						
14							
15							
16	9月						
17							
18							
19	10月	人間関係を深める					
20							
21							
22	11月						
23							
24							
25	12月						
26							
27							
28	1月	信頼し合い高め合う関係を築く					
29							
30							
31	2月						
32							
33							
34	3月						
35							